

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・気温の低下に伴って、紳士衣料・婦人衣料の売行きが好調である。また、高額商品の売行きも好調に推移している。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・オプションサービスなどの追加メニューの引き合いが増加している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・近隣に転居してきた新規顧客が増えている。
	変わらない	商店街（事務局長）	来客数の動き	・週末の来街者数は安定しているが、平日は少ない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・夜の飲食街の人出はまずまずであるが、若者の団体が目立ち、居酒屋だけがにぎわっている。そのため、若者を中心に価格の手頃な商品が中心に売れた。また、敬老の日関連商品は好調であった。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・特になし。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・11月発売解禁のボジョレーヌーボーの予約を8月下旬から開始しているが、前年より減少している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・催事は、来客数・売上ともに前年比プラスであるが、それ以外は前年並みである。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は、既存店で前年並みで推移しているが、売上高は、全体的に購入単価が下落しており、売上増には結びついていない。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・ほぼ前年並みで大きな変化はない。競合店の出店も少なく、落ち着いている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上高は前月比95%であった。来店客の様子に変化は感じられないが、建設業の客が増えており、今後に期待したい。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・来店客数は前年比で若干上向いているが、客単価が下落しているため、売上高は前年比で横ばいである。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・残暑が厳しく、秋物の販売が前年より減少している。夏物のセール品を手取る客が多く、購入単価も低いいため、売上が伸びない。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・来店客数が前年比109%と増えているものの、客単価は前年比85%と減少している。特に、パソコンやテレビ、大型商品の売上が落ちている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・お金をかけず安い旅館に泊まる旅行者が多く、多額のお金をかける旅行者は少ない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・9月は良くなかったが、10月には高知でスポーツイベントが開催されることなどから、人の動きは良くなると考えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの待機場所が減り、道路に並ぶことも禁止しているところが増えており、タクシー自体がすごく動きにくくなっている。走りながら客を探しているが、なかなか見つからず、厳しい。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・スマートフォンへの買換え需要などにより、3か月前と比較すると若干、好調に推移している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・前年と比べて、ほぼ横ばいである。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・9月の来場者は、昨年より若干増えているが、3か月前と比較すると、あまり変化はない。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・公共事業が出てきている。トータルの仕事量は減少しているが、当面の仕事は確保できている。
	やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・9月も暑い日が多く、秋物の出足が非常に悪い。平日の人出が非常に悪く、連休時の観光客等の来街も予想より少なく、厳しい状況である。
		商店街（代表者）	それ以外	・日本を取り巻く状況の見通しが立たない中、消費税増税の話だけが一人歩きしていくと、景気や個人消費が最悪の事態に陥るのではないかと危惧している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・残暑が長引き、特に紳士服関係をはじめとした衣料品関係の販売が悪い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・競争の激化により、特売商品の単価が下落している。また、今年は野菜が昨年より値下がりしており、売上が伸びない。
		衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・残暑が厳しかったため、秋物の売行きが悪い。

		家電量販店（店員）	単価の動き	・製品の販売数は変わらないものの、販売価格が3か月前に比べて、大幅に下落しており、売上の減少が続いている。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・電化調理器具など小型商品の割合が大きくなっており、冷蔵庫・洗濯機などの大型商品が減ってきている。購入よりも、電化製品に関心が強くなってきたために見に来た来店者が多くなったと感じられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金が終了したため、新車の受注状況は悪くなっているが、予想していたほど悪くはない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金による受注増を期待していたが、終盤になっても駆け込み需要は無かった。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金が終了し、受注が減少傾向にある。減少を食い止めるために、営業活動を強化している。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・尖閣諸島問題の影響から、中国方面への海外旅行を見合わせる顧客が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・乗客との会話で、3か月前と比べて、厳しいという声が多い。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・9月の売上は、3か月前比、16.3%増となった。増加要因として周年レースの開催や新スタンドがオープンした効果が挙げられる。しかし、周年レースの売上は前年比 31.8%、前月比 9.6%減と大幅な減少となった。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数、客単価共に下落している。
	悪くなっている	一般小売店〔乾物〕（店員）	単価の動き	・商品単価が安く、下落も続いていることから、非常に困っている。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・来客数、客単価ともに下落している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費者の生活パターンが変わってきているのか、朝の早い時間は売れるが、夕方のピークタイムといわれた時間には売れなくなってきている。来店状況もばらけてきており、まとまった売上が計上しにくくなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金が終了し、販売量が激減している。これから3月末まで業界は厳しいと考えている。
企業動向関連	良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型の太陽光発電所を中心とした再生エネルギー関連の受注が大きく増加している。さらに、一般工場設備などの受注も増えており、受注した仕事をさばくのに手一杯の状況にある。
(四国)	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新発売商品の販売が好調であることに加えて、地域ブランドに対する消費者からの指名買いもあって、順調に推移している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・復興需要によって、国内受注・販売は順調に推移している。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・出荷数量が減ったために、単価の上昇している商品もあるが、需要自体は活発ではない。流通在庫が減らないと荷動きは変わらないと思う。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新開発の商品が好調であるが、既存商品は売上が減少している。全体の売上はあまり変わらない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びず、困っている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に変わりはない。
		輸送業（営業）	競争相手の様子	・物流量が伸びない中で積載効率の向上のために低運賃で受けていた注文を断る同業者が出始めている。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・短期的には非常に落ち着いている状況である。仕事量もある程度確保できており、資材関係の大きな価格変動も無い。
	やや悪くなっている	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同様である。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・長引く円高の影響から受注、売上ともに減少傾向にある。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・赤字国債発行法案の成立が遅れているために、国公立病院等の予算執行が遅れており、受注が減少している。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先の生産数量の減少や、同業他社による価格ダンピングの情報もあり、荷主のコストダウン要請に拍車がかかる恐れがある。

	悪くなっている	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・消費低迷が続く中で、企業活動への影響もあり、前年同期と比べて販売量は減少傾向である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・ホテルでの宴会や、娯楽関連の売上減少が止まらない。消費者が娯楽にお金を使う余裕がなくなっていると感じる。
		公認会計士	取引先の様子	・関与先の試算表等をみると、約75%の企業の売上が減少している。以前は70%位だったが、75%に増えており、景気は下向いていると考えられる。また、最近の大型倒産等が将来を不安にさせている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(四国)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	それ以外	・8月の月間有効求人倍率は0.73倍で、3か月前より0.05ポイント改善している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・企業の正規雇用の求人はあるものの、求職者とのマッチングに時間を要しているほか、派遣や契約社員への雇用形態切替えが見受けられる。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・派遣期間抵触により派遣スタッフとしての勤務ができなくなり、直接雇用へ切替えられ、派遣業としては厳しい面がある。その一方で、新規の需要も増えており、バランスが保たれている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者のうち、常用フルタイムを希望する人が75.6%いるが、新規求人のうち、正社員型の求人は35.6%しかいないため、ミスマッチが続いている。
		民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・医療・福祉・介護関係の職種は、これまで人手不足感があったが、資格を持っているからといって、いつでも就職・転職出来るという時代は終わりつつあるように思われる。
	やや悪くなっている	求人情報誌（営業）	それ以外	・造船の下請け企業では、仕事量が激減している。中には、週4日勤務等で雇用調整を行っている企業もある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・自動車ディーラーや百貨店、スーパーなど規模の大きい顧客を除いて、広告出稿数が激減している。また、新規開業や新店舗などの情報も少ない。
	悪くなっている	-	-	-